

平成 28 年 12 月 22 日

文化振興課

電話：0742 - 34 - 4942

「第 2 回入江泰吉記念写真賞」「第 2 回なら PHOTO CONTEST」 の受賞作品が決定！

奈良を愛した写真家入江泰吉の業績を顕彰するため平成 26 年度に創設をしました「入江泰吉記念写真賞」。第 2 回となる今回は総応募点数 5,600 枚を超え（応募者 101 名）、厳正なる審査を経て、受賞作品が決定しました。

また、同時開催の「なら PHOTO CONTEST」についても各賞の受賞者が決まりました。

両賞の授賞式を平成 29 年 3 月 26 日（日）に開催するとともに、受賞作品展の開催、入江泰吉記念写真賞受賞作品の写真集の出版を行うこととしています。

記

1 「第 2 回入江泰吉記念写真賞」

受賞作品名：Into the forest



受賞者：田淵 三菜（たぶち みな/女性/27 歳/群馬県）

[プロフィール] 1989 年 神奈川県生まれ
2012 年 青山学院大学文学部史学科卒業

(個 展) 2015 年 artist of the month (3 月～5 月の作家として参加)
(HFL ギャラリー/長野)

写真展 (maru café/長野)
2016 年 「田淵三菜写真展」(ルオムの森/群馬)
企画展「Touch with Skin 内在する触感」展 (出品作家)
(山ノ内町立志賀高原ロマン美術館/長野)

(その他) 2015 年 「AKAACA スライドショー in 渋谷～写真の種をまく～」
(ヒカリエ/東京)

■「第2回入江泰吉記念写真賞」について

【開催趣旨】

21世紀は自らの意識を超え「伝える」こと、歴史、文化、地域性へのこだわりが重要なキーワードになる。私たちの心に深く記憶される普遍的な生の眼差しを持った写真の作り手を支援することを目的に、未来そして世界に向けてメッセージとして「写真集」を製作する。

【実施主体】（「第2回なら PHOTO CONTEST」も同じ）

主催 入江泰吉記念写真賞実行委員会（別紙1 委員会名簿参照）

共催 奈良市、一般財団法人奈良市総合財団、入江泰吉記念奈良市写真美術館

特別協力 日本経済新聞社 他（別紙2 協賛・協力一覧参照）

【募集期間】（「第2回なら PHOTO CONTEST」も同じ）

平成28年6月1日（水）から同年8月31日（水）まで

【応募数】 約6,650点（101名 別紙3 応募者数集計表参照）

【審査員】 別紙4 審査員名簿参照

2 「第2回なら PHOTO CONTEST」

（1）カテゴリー1

【募集テーマ】 「大和は国のまほろば」

【応募点数】 424点（136名※ひとり5点まで応募可）

【審査員】 別紙4 審査員名簿参照

【受賞作品】 やまと賞（1名）

作品名：大和の輝き（3枚組写真）

山中 典朝（やまなか のりとも／男性／69歳／和歌山県）

日本経済新聞社賞（1名）

作品名：神苑の鹿（4枚組写真）

吉川 皓三（きっかわ こうぞう／男性／71歳／奈良県）

入選（20作品） 別紙5 受賞者名簿参照

（2）カテゴリー2

【募集テーマ】 「愛しのいぬ・ねこ・しか」

【応募点数】 いぬ賞68点（24名） ねこ賞55点（28名） しか賞149点（62名）

※いずれも、ひとり5点まで応募可

【審査方法】 展覧会会期中に、来館者による投票を行い決定します。

（投票期間：平成28年2月7日～2月28日）

3 授賞式

日時：平成29年3月26日（日）15時～（予定）

会場：入江泰吉記念奈良市写真美術館

4 今後のスケジュール

（1）入江泰吉記念写真賞受賞作品「Into the forest」の写真集を出版

(2) 受賞作品展を開催

会期 平成 29 年 2 月 7 日 (火) ～4 月 9 日 (日) 【54 日間】

会場 入江泰吉記念奈良市写真美術館

(3) 「入江泰吉記念写真賞巡回展」を開催

・東京会場 (会期・会場未定)

・大阪会場 (会期未定／日本経済新聞社大阪本社 1F エントランスホールを予定)

(4) 「なら PHOTO CONTEST<カテゴリー 1>巡回展」を開催 (会期未定)

・奈良まほろば館／東京・日本橋

・奈良市役所

・奈良市観光センター

・橿原市観光交流センター かしはらナビプラザ

5 その他添付資料

「第 2 回入江泰吉記念写真賞」「第 2 回なら PHOTO CONTEST」作品募集パンフレット

入江泰吉記念写真賞実行委員会名簿

○委員

役 職	氏 名	主な肩書等
会 長	飯沢 耕太郎	写真評論家
副会長	山本 あつし	ならそら代表 クリエイティブ・イントロデューサー
委 員	矢野 建彦	写真家／日本写真家協会会員 水門会会長
委 員	清水 和彦	公益社団法人奈良まちづくりセンター理事 読売新聞大阪本社社友
委 員	木村 文男	ミュージアムぐるっとパス関西実行委員会事務局次長 株式会社廣濟堂常勤顧問（アートビジネス担当）
委 員	石村 由起子	くるみの木主宰 奈良生活デザイン室室長

○監事

役 職	氏 名	主な肩書等
監 事	岡本 善英	公認会計士 一般財団法人奈良市総合財団監事
監 事	西谷 忠雄	奈良市会計管理者

○事務局

役 職	氏 名	主な肩書等
事務局長	百々 俊二	写真家 入江泰吉記念奈良市写真美術館館長
事務局 次長	柴田 憲一	奈良市市民活動部文化振興課長
会 計	松本 恵子	入江泰吉記念奈良市写真美術館事務長

後援、協賛、協力一覧

[後援]

奈良県、奈良県教育委員会、奈良市教育委員会、
一般財団法人奈良県ビクターズビューロー、公益社団法人奈良市観光協会、
一般社団法人橿原市観光協会

[協賛]

近畿日本鉄道株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社南都銀行、
奈良交通株式会社、キヤノンマーケティングジャパン株式会社、
株式会社ニコンイメージングジャパン、富士フイルムイメージングシステムズ
株式会社、株式会社日本カメラ、株式会社 DNP フォトイメージングジャパン、
株式会社堀内カラー、株式会社トミカラー、近鉄不動産株式会社、
三和住宅株式会社、株式会社きんでん、奈良トヨタ自動車株式会社、
ヤマトロジスティクス株式会社、西日本電信電話株式会社、大阪ガス株式会社、
岡村印刷工業株式会社、株式会社エヌ・アイ・プランニング、
株式会社ホテルサンルート奈良、奈良県タクシー協会奈良市部会、
協同組合奈良県写真師会、奈良県写真材料商組合、水門会（入江泰吉門下生）

[助成] 文化庁、奈良県

[協力] 西日本旅客鉄道株式会社

応募者数集計表

	第2回入江泰吉 記念写真賞	第2回なら PHOTO CONTEST			
		カテゴリー1	カテゴリー2		
			いぬ	ねこ	しか
応募者数	101名	136名	8名	25名	62名
作品総枚数	5,660枚以上 (※1)	424点 単写真379点 組写真45点(158枚)	18点	51点	149点
平均年齢	48歳(※2)	58歳(※2)	47歳	46歳	54歳
男性	74名	105名	3名	16名	39
女性	27名	31名	5名	9名	24
応募者所在地					
奈良	22名	78名	5名	7名	36名
大阪	7名	18名		6名	7名
兵庫	4名	10名		2名	3名
京都	7名	6名			4名
滋賀	2名				
和歌山	1名	2名		1名	1名
三重	1名	4名			
北海道	1名				1名
岩手	2名				
秋田				1名	
群馬	1名	1名	1名		1名
埼玉	1名				1名
千葉	1名	1名		4名	
東京	25名	4名			2名
神奈川	9名	4名	2名	1名	2名
富山	1名				
石川				1名	
福井	2名	1名		1名	1名
長野	1名				
岐阜		1名			
静岡	1名	1名			1名
愛知	3名	2名		1名	1名
島根	1名				
広島	1名				
山口					1名
高知	1名				
福岡	3名	2名			
熊本	2名				
鹿児島	2名				

※1 7名が点数無記入のためカウントしていません。

※2 1名が年齢無記入

審査員名簿

『入江泰吉記念写真賞審査員』

飯沢耕太郎	写真評論家
三好和義	写真家
河瀬直美	映像作家
有元伸也	写真家
黒阪幸伸	日本経済新聞社大阪本社写真部長
百々俊二	写真家・入江泰吉記念奈良市写真美術館長

『なら PHOTO CONTEST<カテゴリー1>審査員』

飯沢耕太郎	写真評論家
岩本知星	華道家・一般財団法人草月会理事
吉川直哉	写真家・大阪芸術大学客員教授
黒阪幸伸	日本経済新聞社大阪本社写真部長
百々俊二	写真家・入江泰吉記念奈良市写真美術館長

なら PHOTO CONTEST<カテゴリー1>入選者一覧

別

NARA 単写真	ありま しげき 有馬 茂樹	男	54歳	兵庫県	金魚池宇宙 5枚組写真	まつもと ななこ 松元 那々子	女	28歳	奈良県
天空のシンフォニー 単写真	てんじん のぼる 天神 登	男	73歳	奈良県	蓮の道 5枚組写真	こばやし のぶこ 小林 伸子	女	75歳	奈良県
霧中に咲く 単写真	おおにし ただお 大西 忠男	男	72歳	奈良県	晩秋の曾爾高原 5枚組写真	かねはら さとし 金原 智	男	54歳	愛知県
曼珠沙華、咲く頃に 単写真	みつい ゆうすけ 三井 悠輔	男	27歳	奈良県	食の原点 5枚組写真	えたに まみ 恵谷 摩美	女	50歳	兵庫県
The Symbole 単写真	すぎもと りょうた 杉本 良太	男	30歳	奈良県	平城の夏 単写真	かんべ よしあき 神戸 祥明	男	61歳	奈良県
禱り 5枚組写真	よこおおじ ゆうこ 横大路 ゆう子	女	48歳	福岡県	大樹の下で 単写真	あきもと まさる 秋本 勝	男	75歳	奈良県
飛火野のおもてなし 単写真	まつかわ やすのり 松川 家功	男	67歳	京都府	吉野路に春来る 単写真	おくだ かつや 奥田 勝也	男	36歳	奈良県
奈良公園の静かな春 4枚組写真	こばやし みゆき 小林 美由紀	女	55歳	静岡県	蓮を摘む農夫 単写真	かわかみ ゆうすけ 川上 悠介	男	33歳	奈良県
大和茶の里・冬景色 3枚組写真	おかもと やすのり 岡本 泰紀	男	65歳	奈良県	まほろばのひととき 3枚組写真	やまだ たいち 山田 太一	男	42歳	大阪府
大樹の陰 2枚組写真	てらむら ゆうき 寺村 雄機	男	31歳	兵庫県	金の和、銀の和 2枚組写真	つじもと かつひこ 辻本 勝彦	男	38歳	奈良県

※順不同。年齢は応募時のものです

第2回入江泰吉記念写真賞 講評

別紙6

審査委員長 総評

【飯沢耕太郎（いいざわ・こうたろう）／写真評論家、同賞審査委員長】

2015年からスタートした入江泰吉記念写真賞は、2回目を迎えてその募集内容を大きく変えた。受賞作品を展示するだけではなく、「未来そして世界に向けてのメッセージとして写真集を製作する」ことが掲げられたのだ。この趣旨に沿って、2016年9月30日に審査委員会が開催され、101点の応募作品を厳正に審査した結果、田淵三菜さんの『Into the forest』が栄えある受賞作に選出されることになった。

田淵さんは青山学院大学文学部在学中から写真を本格的に撮影しはじめた。同大学卒業後、群馬県北軽井沢の山小屋に一人で住みつき、近くの森にカメラを手に踏み込んでいった。1月から12月まで、季節の変化を全身で感じとりつつ撮影された写真群は、みずみずしい生命力にあふれ、若い世代の新たな「自然写真」の胎動を感じさせる意欲作である。

インターネットとSNSの時代となり、写真を撮影し、画像を共有するあり方は大きく変わりつつある。だが優れた写真作品を、未来に向けて、広く世界に発信するために、写真集という媒体は代替えがきかないのではないかと思う。本賞が今後も多くの写真家の方々に支えられ、さらに発展していくことを期待したい。

審査員評

【三好和義（みよし・かずよし）／写真家】

初々しい感じがする大好きな作品です。一連の作品を見終った時、泣けてきました。言葉には現わせない満たされた気持ちになりました。田淵さんの気持ちがじんわりと伝わってきます。明るく、ほがらかな気持ちではなく、少しカゲのあるような…。抽象的なシーンも多いのですが植物の質感描写がリアルでしっかりとっていて、臨場感もあります。今までにないアプローチをとった作品だと思い選びました。

【有元伸也（ありもと・しんや）／写真家】

都市は常に観察者の目に晒されることによりその存在を顕にしている。かたや森は、観察者としての人がない間、はたしてどのように佇んでいるのだろうか？田淵の作品は、自然景観としての森を客観的に切り取り、それを讃える類のものではない。「Into the forest」というタイトルは、森を踏み分け、侵入し、それを観察する行為を指すのではなく、そこにある全ての命、光や時間と共に、自らが森の変遷や記憶の一部になろうとする試みのようだ。この作品のページを捲る私は、観察者の一方的な価値観に惑わされることなく、ただ森の秘密を覗き見る。

【黒阪幸伸（くろさか・ゆきのぶ）／日本経済新聞社大阪本社写真部長】

応募作品を見ていく中で、引きこまれ何度も見返してしまったのが「Into the forest」でした。自分も森の入り口に立ち、作者のまなざしに同化するように一緒に森の中へと分け入るような感覚。最後は暖かい包容力に包み込まれるような気分になった作品でした。作品のそこかしこに作者の温もりが漂い、想いが刻み込まれ、それが見る者を森の奥深くにいざなってくれるのかもしれませんが。写真は森の中に息づく偶然性の連鎖に寄り添うように撮られているように感じました。いわゆる森の循環や新陳代謝の記録を超えた、自然への新鮮なアプローチに満ち満ちた写真群だと思います。

【百々俊二（どど・しゅんじ）／写真家・入江泰吉記念奈良市写真美術館館長】

101人の作品の応募があった。私は2週間かけてすべてを見せていただき20点に絞り込み、2、3日置いて10作品を選んだ。どれも作者がどのように見ているか、写真を通して追体験しながらことばの要約、意味を越えてそこにある写真表現としてのイメージを写真集として見たいか、を問いながら、2作品が残った。

そして、田淵三菜「Into the forest」が審査で選ばれた。田淵の森は、私の体験や私が考えているよりはるかに豊かであり、まるで違うもののようにさえ見えてくる。空気と水の温度（例えば、夏30℃～冬-10℃）による存在の差、光と影、色彩の細やかな差、こうした微妙な差異を注意深く見つめている。写真技術は未熟だ、それがかえって加工をしないストレートに対象を撮りつづけることで、ただの表層ではなく無意識の領域、こころの光が写っている。

ブックデザインの町口覚氏によって、この森がどんな光を射つのか楽しみだ。